

元伊勢籠神社

元伊勢籠神社は奈良時代（710～794 年）に旧丹後国で最高位の神社となりました。三重県にある伊勢神宮と深い関わりがあります。日本の神話によると、元伊勢籠神社は食物の神である豊受大神が鎮座されていたところでした。天照大神が奈良の皇宮を後にされた際、ここに立ち寄り、豊受大神と共に伊勢神宮に向かわれました。現在は共にその地に祀られています。このような歴史もあり、この神社は「元伊勢（伊勢の前）」と呼ばれているのです。

建築様式もよく似ています。本殿は単純な切妻屋根の建物で、屋根の稜線の上に「×」の形をした尖頭が突き出しています。両社の本殿の高欄には、炎のような形をした五色の宝石「座玉（すえだま）」が並んでいます。伊勢神宮と同様、この神社も鎌倉時代（1185～1333 年）までは 20 年に一度建て替えが行われていました。伊勢神宮では今も建て替えが行われています。

元伊勢籠神社には、祖先の神から 9 世紀後半までの皇室の系譜をたどる、現存する中で最古の系図が保存されています。この海部氏系図は国宝に指定されており、一般に公開されることはほとんどありません。また、鎌倉時代に作られた 2 体の石造の狛犬が神社の入り口を守っています。

天橋立に向かう人々は、昔から砂州の北側にあるこの神社をよく訪れていました。天橋立を展望する笠松公園行きのケーブルカー乗り場は神社の境内近くにあります。